

月刊「キリスト教書評誌」

本のひろば

January 1
2020

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター
1957年7月17日第三種郵便物認可
2020年1月1日発行(毎月一回発行)第745号

● 出会い・本・人

聴き上手になりたい 野村 稔

● 特集「キリスト教文学」を学び直すには

この三冊! 柴崎 聡

● 本・批評と紹介

広田叔弘著 詩編を読もう下 松本敏之

山根道公著 遠藤周作と井上洋治 木崎さと子

菊地伸二著 今さら聞けない!?! キリスト教 近藤 剛

桜井健吾著 労働者の司教ケテラーとその時代 梅津順一

ヴォルフハルト・パネンベルク著/佐々木勝彦訳

組織神学第一巻 芦名定道

G・プラスガー著/芳賀 力訳

ハイデルベルク信仰問答との対話 小堀康彦

越川弘英編著/荒瀬牧彦、丹治めぐみ、本田栄一、増田 琴著

礼拝改革試論 浦上 充

榎本てる子著/青木理恵子編 愛の余韻 ロブ・ウィットマー

佐々木炎著 どん底から見える希望の光 木原活信

近刊情報

書店案内

未完の独立宣言

2・8朝鮮独立宣言
から100年

12月23日

在日本韓国YMCA〔編〕

「2・8独立宣言」が東京から発せられ3・1独立運動の端緒となつて100年。その歴史的意義やキリスト教との関係、また現代に提起する課題を考究する。寄稿者 小野容照、尹慶老、波多野節子、宋連玉、裴始美、太田哲男、松田利彦、徐正敏、金興洙、李省展、マイケル・シヤピロ、金性済、佐藤飛文、佐藤信行、田附和久 ◆四六判・本体2500円

主は偕ともにあり

田中遵聖じゅんせい説教集

大反響



田中遵聖〔著〕／写真家 神藏美子〔解説〕
直木賞作家田中小実昌の父にして独立教会「アサ会」の牧師だった田中遵聖（一八八五—一九五八）。その自由で無類な福音観を余す所なく示す説教集。長らく入手困難だった貴重な書を復刊。 ◆A5判・本体3000円

組織神学 第一巻

待望の邦訳ついに刊行開始

ヴォルフハルト・パネンベルク〔著〕／佐々木勝彦訳〔訳〕

反響！

キリスト教の真理要求をあくまで保持しつつ、歴史的省察と体系的省察とを絶えず結合し貫徹しようとする批判的・方法的意識に貫かれた精密な叙述。第一巻では組織神学の本質、キリスト教の真理性の意味、そして神論を扱う。全三巻。 ◆A5判・本体9000円

アモス書講義

改革者の肉声が聞こえる！

ジャン・カルヴァン／関川泰寛〔監修〕／堀江知己〔訳と解説〕

大好評

ヘブライ語原典を自らラテン語に訳し、逐条的に入念なパラフレーズを行う。創設間もないジュネーブ大学で語られた講義の、ライブ感溢れる記録。 ◆A5判・本体5000円

第二コリント書 10-13章

11月22日

佐竹 明 (広島大学・フェリス女学院大学名誉教授)

【現代新約注解全書】

世界最高水準の注解。パウロを中傷する論敵との対応、そこから浮かび上がるパウロ神学における「弱さ」「愚かさ」の意味とは。次回は1-7章。 ◆A5判・本体9700円

既刊 第二コリント書 8-9章

◆A5判・本体7000円

パウロによる献金問題への訴えなど重要な個所を扱う。



聴き上手になりたい

野村 稔

本を読むのが好きではない。私がこの欄に文章を書かせて頂くのに最もふさわしくない人物であることは、私自身が最もよく知っている。私が本をきらいになったのは、子どもの頃、国語の教師であった父親の「本を読みなさい」という言葉に反発したからである。素直に従っておけばよかったと今になって猛烈に反省・後悔している。では今から読めばよいではないかと思うのであるが、そうできない自分が情けない。

しかし、神様は私をたくさんの人に会わせて下さった。お名前を挙げさせて頂くならば切りがない。学校の先生や教会学校の先生、教会の牧師。伝道者になってからは、たくさんさんの証しを聞かせて下さった教会員の方々や疑問をぶつけて来てくれたキリスト教学校の生徒たち。あるいは自ら命を絶った後輩。必ずしもキリスト者ばかりではない。私が牧師であるということを知ると、俗世間の罪を悲しん

で「懺悔しに教会に行きたい」と言う人もいる。その後一年経ってもその人は教会に来ないが。多くの方から聞いた多くの言葉とその言葉を聴いた場面が、私の記憶の中に積み重なっている。主イエスを産んだ後のマリアのように、起こった出来事をすべて心に納めて思い巡らすことのできる事が、何よりの財産である。

そのような私が好んで読むのは説教集である。解き明かされる御言葉は説教者であり伝道者である私の信仰そのものを養う。そして時に、その御言葉は私の心を動かし、信仰を鼓舞させ、御言葉がそこに書かれている「言葉」そのものに増して、広がり迫って来る。そのような御言葉の説教のために私を用いて頂くことができれば、伝道者として、説教者として、この上ない幸せである。

地上の命が終わる時まで、出会いの出来事(言葉)を積み重ねて行きたい。きつと今よりも心に深く、「イエスの言葉を思い出す」(ルカ二四章八節)ことができるに違いない。



「キリスト教文学」を学び直すには ▼この三冊！

柴崎 聰

(しばき とも・さとし：日本聖書神学校講師、詩人)

読みとることができよう。
この優れた見識に後押しされて、
ジャンルの著しく異なる次の三つの作
品を紹介したいと思います。

アガサ・クリステイ『ベツレヘムの星』

アガサ・クリステイ（一八九〇—
一九七六年）は、名探偵エルキュール・
ポアロやミス・マープルのシリーズで

有名なイギリスのミステリー作家です
が、クリスマスに関わる珠玉の短篇集
も書いているのです。

全体の構成は、次のとおりです。

*ごあいさつ／ベツレヘムの星／*ク
リスマスの花束／いたずらロバ／*黄
金、乳香、没薬／水上バス／夕べの涼
しいころ／*空のジェニー／いと高き
昇進／*神の聖者／島（*は詩）

私は特に短篇「水上バス」に魅了さ
れました。信心深く、人間は愛し合
わなければならぬことを十分にわき
まえていながら、人間嫌いのミセス・

を重んじ、そこに立脚点を置きたいと
考えています。

（キリスト教文学）という時、こ
れはひとりキリスト者の文学のみを
指すものではあるまい。欧米のごと
きキリスト教国ならぬこの風土に
あつて、ことは微妙に錯綜し、屈折
する。聖書やキリスト教に出会いつ
つ、なお入信に至らず、〈信〉と〈認
識〉のはざまに揺れつつ、その葛藤、
その緊張自体を生き抜いた作家、詩
人のなかに、我々は見るべき多くを

文学に「キリスト教文学」というジャ
ンルがあるのかどうか、その定義は確か
なものなのかどうか、それを確定する
ことに私は多少のためらいを覚えます。
キリスト者が書いた文学が「キリス
ト教文学」であるという、有力な主張
があります。しかし、この主張に私は
多少の違和感を覚えます。特に日本の
文学作品には、キリスト者でない作者
によって書かれ、キリスト教の肝要に
迫るものが少なからずあるからです。

私は、日本文学者の佐藤泰正の定義

ハーグリーブズが主人公です。彼女に
は息子と娘がいますが、二人とも結婚
して遠くに住んでいます。彼女はロン
ドンの住み心地のいいマンションにひ
とり暮らしをしています。

その日、ミセス・ハーグリーブズは、
無人島に行きたいと考え、テムズ河の
船着き場へ向かい、グリニッジまでの
切符を購入します。その中で、船首に
いる東洋人風の乗客が気にかかりま
す。その人は、ラシヤのような生地
のケープに似た上衣を着ていました。彼
女はその生地に触れます。すると彼女
の今までの心の在り様が変わります。

グリニッジから電車で帰宅し、今ま
でなんとなく気にしてきた、通いのお
手伝いさんのミセス・チャブのもの
もろのこと、肉屋さんの店先の口喧嘩、
八百屋さんのおかみさんが、「ラウ」
とか「ダーリン」とか、無遠慮に呼び
かけること、機嫌の悪い女の車掌のこ

と、満員電車のすべてを許容できるよ
うになっています。

上衣の生地に触れるという行為は、
「イエスの服に触れる女」（マタイ九・
二〇—二二）、マルコ五・二五—三四、
ルカ八・四三—四八）を意識している
に違いありません。

ミセス・ハーグリーブズに回心が訪
れます。人間に好意を持つようになる
のです。自分に与えられたものを理解
し、つつましく、心の底から感謝しま
す。外から見て得た知的な考え方は
なく、内から得たもの、その温かさ
と幸福を知ります。

そこで彼女は調和のとれた一枚織り
の、あの上衣のことを思いおこしまし
た。東洋風の男の顔を見ることはでき
ませんでした。理解したような気が
しました。その人が誰なのか。「あ
りがとう」と彼女は心の底から感謝に
あふれて言いました。

そのころ水上バスの係員が手にした
切符を不思議そうに見ていました。「お
客は八人だったんだ。ちゃんと数えた
んだから。それなのに、切符が七枚し
かないんだ」「誰も残っちゃいないよ。
自分で調べてみる。おまえが知らんう
ちに降りたんだろう——それとも、水
の上を歩いていったのかな！」

船長は自分の冗談に腹をかかえて笑
いました。イエスが「湖の上を歩く」（マ
タイ一四・二三—三三）、マルコ六・四五
—五二、ヨハネ六・一六—二二）に基
づくユーモアを感じて、読み手に幸福
がしみじみと湧いてきます。

山本周五郎『柳橋物語』

作家の山本周五郎（一九〇三—六七
年）は、山梨県の大月で生まれ、極貧
のうちに四歳までを過ごした人です。
幼少時、父に連れられて横浜の教会に
通い、聖書や讃美歌に親しみました。
洗礼を受けることはありませんでした

が、聖書がさし示す「愛」を誠実に伝え続けた作家であると言えます。

小説『柳橋物語』の背景は、江戸時代です。この時代、現在私たちが抱く「愛」という概念はありませんでした。この小説では、「愛」という言葉が意図的に多用されています。

主要な登場人物は、三人です。おせんに心を寄せる幸太と庄吉は同じく大工の修業中。幸太が棟梁の養子に決まってから、庄吉は上方で修業すると言って旅立って行きますが、その前に「三年から五年待っててくれ」と言われて、おせんは承知してしまいます。

その間、幸太はおせんに好かれていないことを知っていながら、何くれとなくおせんの病気の祖父の世話をしてくれます。江戸を襲った大火の際には、祖父を背負って逃げ、おせんを助け、自分は身代わりになって大川に沈んで死んでいきます。

ユーモア。

従来の石原批評は、シベリヤ体験に偏ってなされてきた嫌いがあります。が、本書では、「Iシベリヤ」のエッセイはすべて、『夜と霧』の著者ヴィ



『ベツレヘムの星』

アガサ・クリスティ：著
中村能三：訳
早川書房
2003年刊
文庫判144頁
700円（税別）

幸太の愛には、感情的ではない、見返りを求めない「痛み」と「苦しみ」が伴っています。おせんは大火事の時に拾った赤子を自分の子として育てることになりますが、頭が混乱しているときに、町役に幸太郎と名づけられてしまったことが災いして、上方から帰った庄吉に疑われます。

庄吉は、別の棟梁の婿養子に入ってしまった、あれほど待ちに待っていたおせんは見捨てられます。やつと健康を快復したおせんは「本当に愛してくれた人は誰なのか」に気づき、血のつながりのない幸太郎と生きていくことを決意します。

『柳橋』は、大川にかかる形而下の橋でありながら、形而上の橋でもあります。それは「愛」の橋です。

『石原吉郎セレクション』
石原吉郎（一九一五—七七年）は、東京外国語学校を卒業後、就職先の大



『柳橋物語・むかしも今も』

山本周五郎：著
新潮社
1964年刊
文庫判320頁
630円（税別）

クトール・フランクルに懲憊しょうぼうされて執筆が可能になったという視点に立ち、編集されています。

『Ⅲ聖書と信仰』では、「半刻はんこくのあいだの静けさ」「信仰とことば」「聖書と



『石原吉郎セレクション』

石原吉郎：著
柴崎 聰：編
岩波書店
2016年刊
文庫判282頁
1100円（税別）

ことば」「詩と信仰と断念と」などのエッセイが選ばれ、石原が聖書の影響を受け止めてなお、たじろがずに歩んだ軌跡が奇しくも、轍わだちのように立体的に刻み込まれています。

阪で、神学者カール・バルトの直弟子エゴン・ヘッセルから洗礼を受け、牧師になるために神学校へ進む決心をし、上京します。その後、東京の信濃町教会の会員になりました。二十四歳の時、召集され、ハルビンの関東軍情報部の特務機関に配属されます。敗戦と同時にソ連軍によって取り調べを受け、留置されます。三十三歳の時、捕虜収容所に収容され、やがて重労働二十五年の判決を受けます。一九五三年、三十八歳の時に独裁者スターリンの死去に伴う特赦で帰国した詩人です。

彼の散文は、ノートやメモや日記も含めると約九十篇ほどありますが、本書では、その中から三十三篇を選び出し、四つの区分けをして構成されています。

Iシベリヤ——フランクルに導かれて、II詩の発想、III聖書と信仰、IV

詩編も著者も、私の気持ちを分かってくれている

〈評者〉松本敏之



詩編を読もう
ひとすじの心を
下
広田叔弘著

本書は、さきに発売された『詩編を読もう 上 嘆きは喜びの朝へ』に続く下巻です。上巻同様、日本FEBICで放送された原稿に加筆されたものであり、「十字架の光のもとで詩編の言葉を聴きたい」という方針に貫かれています。

皆さんは、誰かに陥れられそうになった経験がありますか。私にはあります。その攻撃が執拗に波状的に続き、心がさいなまれました。吐き気を催し、眠れなくなることもありましたが、自分には非があるのかもしれませんが、自分ではそうは思えない。ヘイトスピーチを受ける人の気持ちも、そういうものかもしれないと思いました。

そういう時、イエス様の愛の言葉はなかなか受け入れられません。「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」(マタイ5・44)。私自身、何度も説教してきました。「好きになれということではありません。その人も神に愛

にわたしを助け出してください」。重要なのはここ。70編の箇所です。思い出しましょう。私たちが、この詩人と同じ祈りを祈ったことがあるのではないのでしょうか。いいえ、今祈っている人がいるはずですよ(二二二頁)。著者も、私の気持ちを分かってくれていると思いました。

第86編も嘆きの詩編です。「神よ、傲慢な者がわたしに逆らって立ち 暴虐な者の一党がわたしの命を求めています」(詩編86・14)。「詩人と違い、私たちは敵に命を狙われているわけではないでしょう。けれども、試練の現実があります。悪意をもって攻撃を仕掛けてくる人間は必ずいるのです。試練、過剰ストレス、理不尽を経験しない人生はありません。この中で、分からなくなるのです。信じ、頼みとする神さまが、何であるのかわからなくなる。』御

された存在として受け入れることです」。ゴールは分かっています。心がついていかなければなりません。

ただ嘆きの詩編の言葉は、心にすっと入ってきました。「わたしの命をねらう者が 恥を受け、嘲られ わたしを災いに遭わせようと望む者が 侮られて退き はやし立てる者が 恥を受けて逃げ去りますように」(詩編70・3-4)。聖書にこんな言葉があることに救われました。礼拝の詩編交読では、ひととき大きな声で読みました。

著者はこの詩編について、こう述べます。「詠み手がどのような立場にいた人なのかは分かりません。登場する『わたしの命をねらう者』が、政治的な敵なのか、人間関係の中で生じた敵なのか、これも分からない。……敵の正体そのものは、重要ではありません。読み手は今、苦難の中にいます。……この中で神さまを呼ぶのです。『速やか

名を畏れ敬うことができるように 一筋の心をわたしにお与えください』(四〇頁)。著者は、私の心に寄り添い、信仰へと立ち帰らせてくれる気がしました。

著者は、「あとがき」で、自分の不登校、引きこもりの経験を述べています。「人との繋がりは切れ、孤立してしまいました。ある日のことです。夕方になって外へ出ました。七十年配の隣家の主婦が、私のことをジロツと見ました。……さげすみをこめた冷たい眼差しでした」(二二七頁)。彼も孤独のうちに悩み、つらい経験をしてきたからこそ、人の痛みが分かるのだと思いました。著者に伴われて詩編を読み、その奥深さを味わってください。

(まつもととしゆき 鹿兒島加治屋町教会牧師)
(四六判・二二四頁・本体二〇〇〇円＋税、日本キリスト教団出版局)

ドイツを代表する新約学者の集大成の著作、ついに邦訳完結!

新約聖書神学Ⅱ 下
フェルディナント・ハーン 大貫隆・田中健三 訳

神学の諸課題ごとに新約各文書の証言を分析。「キリスト教正典としての旧約聖書」「啓示」「救済論」を扱った上巻に続き、下巻では「教会論」「終末論」を扱う。

A5判上製・488頁・13200円

一シリーズ好評発売中 各13,200円—
新約聖書神学Ⅰ上 大貫隆/大友陽子 訳
新約聖書神学Ⅰ下 須藤伊知郎 訳
新約聖書神学Ⅱ上 大貫隆/田中健三 訳

悩み、苦しむ現代人の心を癒す言葉に満ちた、ナウエンの名著を復刊!

ナウエン・セレクション
今日のパン、明日の糧
暮らしにいのちを吹きこむ366のことば
ヘンリ・ナウエン
嶋本 操 監修 河田正雄 訳
酒井陽介 解説

傷つき、揺れ動き、迷い、神を求め続けたヘンリ・ナウエン。その歩みの到達点とも言える、366の短い黙想を取録。
四六判 並製・424頁・2,640円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.ucci.or.jp (価格10%税込)
<http://bp-uccj.jp>

〈生の真実〉としての師弟関係

〔評者〕木崎さと子



遠藤周作と井上洋治

日本に根づくキリスト教を求めた同志
山根道公著

作家遠藤周作とカトリック司祭井上洋治の、魂の結びつきを、それぞれの著書を基盤に解説した名著である。著者山根道公氏は、井上洋治神父が祈りと集いの場として創めた「風の家」を引き継ぐ主宰者であり、十巻に及ぶ「井上洋治著作選集」の編者である。また文学研究者として、遠藤文学をキリスト教の観点から読み解く。作家と司祭の奇跡的出会いと「共闘」を語るにふさわしいひとである。

深い感慨と懐かしさをもって読み進み、ある安堵を覚えた。遠藤氏や井上師の、在りし日のお姿や声音が蘇ってくるから懐かしいのではない。私にとっては、お二人はいまも「すぐそこ」に生きていらっしや、懐旧の情の対象ではない。懐かしいのは、宗教を衣服に喩えた遠藤に倣えば、糊がきいているの身に馴染む木綿の着物の感触。全身が包まれるが、身八つ口から爽やかな風が通る。

て、よき案内書であることはむろんだが、私には著者の「まじめさ」が貴重である。

それは、漱石の『こころ』で「先生」が、自分を慕う学生「私」に向かって問う「まじめ」である。『こころ』は近代人の自我と罪の観点から論じられることが多いが、そのテーマが物語として語られるのは一作の後半であって、そこに至るまでは、「私」が「先生」の人生の謎を追う、というより、惹かれて已まない真摯な眼差しに、応えることの不可能を意識しつつも立ち向かう先生との関係が描かれる。近代の入り口に立って、個人の冷厳な運命を引き受けつつ親身に結ばれる師弟関係に、生の真実がある。

遠藤と井上はイエスという究極の〈師〉が、あまりに西洋化された、日本人に馴染まない姿で伝えられることを嘆

遠藤も井上も、戦前の日本生まれだが、遠藤は満州の大連から神戸、母はピアニスト、井上は東京で、姉がカトリックのシスターといった、当時としては、かなり洋風な環境で育った。しかし長じて留学および修行によって本物の西洋に触れた時、自己を形成した故国の文化の深さを意識し、〈神Ⅱイエス〉の顔をそこに求めた。

遠藤は井上を「戦友」と呼んだ。昭和初期に育った少年たちにとって、この語は比喩を超えて血の実感を伴う。兵隊たちが、観念としての皇国ではなく故郷の山河を想い、天皇陛下万歳と叫ばず、母を呼んで死んだ、と戦後に聞かされて深く納得した世代でもある。

本書はその「戦友」ぶりを、二人の著作から丹念に拾い上げ、時代背景とともに考察し解説する。それ自体が大きき物語であり、遠藤、井上それぞれの読者、研究者にとつ

き、親身なイエスを伝える努力の過程で、西洋と東洋の信仰の在り方を比較し、新たな信仰観に辿り着いた。

テクノロジーの発達が世界を激変させつつある今「東西」という大テーマも色を変えたかに見えるが、〈生の真実〉を追う「学生Ⅱ私」は世界中に絶えないであろう。

『こころ』の「先生」は「自分で自分の心臓を破って、その血をあなたの顔に浴びせかけよう」と遺書に記し「私の鼓動が停った時、あなたの胸に新しい命が宿る事ができるなら満足」と願った。遠藤と井上の表現はもつと穏やかだが、その熾烈な願いは……引き継がれている。

(四六判・二二六頁・本体二二〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局)
(さきさき・さとこ作家)

神学ダイジェスト127号

急速な変化を遂げる現代社会。その中において、多様な価値観に直面するキリスト者。本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現代人のかかえる信仰への真摯な問いに光をあてる。

2019年12月発行
A5判128頁
定価630円(税込)

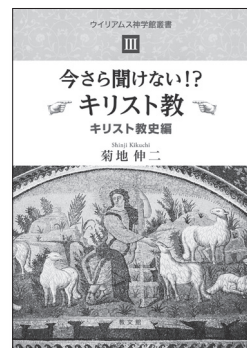
特集 哲学と信仰

巻頭言 哲学と神学 トマスの形而上学と靈魂論の素描から 佐藤直子
ブロンデルの超自然の仮定における哲学と神学の共生 C・ド・アティ
ポール・リクール——哲学者にしてキリスト者 F・フランマー
ヨゼフ・ピーバーの「神学としての哲学」と科学 N・A・ウォーレン
ラッティンガーが語る「理性」啓示「思考の冒険」 J・V・シャル
教皇フランシスコとカリススマ刷新 A・イヴリー
正義を求める共苦(コンパッション) H・ヘイカー
性的虐待への取り組みに対する外部協力 J・M・フエゲルト

上智大学神学会
神学ダイジェスト編集委員会
東京都練馬区上石神井4-32-11
〒177-0044 Tel & Fax (03) 3594-4349
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

神への愛と自己への愛に立ち 現代を生きるために

〈評者〉近藤 剛



ウイリアムス神学叢書Ⅲ
今さら聞けない!? キリスト教
キリスト教史編
菊地伸二著

本書は「今さら聞けない!? キリスト教」シリーズの待望の第三弾です。日本聖公会ウイリアムス神学館主催の信徒向けの「キリスト教講座」が基になっているため、叙述は平易になされています。けれども、著者は大部の『キリスト教史』（教文館、二〇〇五年）を著した専門家であり、最近の学問的成果にもよく目配りされた、堅実な内容となっています。本書は「Ⅰ キリスト教の歩み」と「Ⅱ キリスト教をめぐる諸問題」の二部構成で巻末には年表が収録されています。Ⅰ部では、古代キリスト教、中世キリスト教、宗教改革の時代、近現代キリスト教が概説的に取り上げられ、キリスト教の通史としてバランスよくまとめられています。教会建築、巡礼、聖人など、文化的な題材も見られます。Ⅱ部では、現代社会が抱える平和、差別、自然災害などの問題にキリスト教がどのように答えていく

のか、また今日における救済や聖書解釈の問題はどのように取り扱われるのか、さらにキリスト教の将来はどのように展望されるのか、といった事柄が論じられています。評者は本書の特徴を二点に絞って述べたいと思います。第一は著者の歴史観についてです。著者は「歴史は過去との対話」というスタンスに立って物事を考えておられます。歴史を捉えようとする時、過去が何を語りかけてくるかに耳を傾けながら考えるという姿勢に、評者も共感します。著者が、一つの時代に安易にレッテルを貼ることは著しく配慮に欠けたことだ、歴史的評価はどのような視点に立つかによって変わるのだと指摘されているように、歴史の取り扱いは慎重かつ真摯に行わなければならないと思います。本書から、歴史に対する著者の真剣な眼差しが垣間見えて好感を覚えるとともに、昨今の歴史認識をめぐる諸懸案に

どのように向き合えばよいのか示唆されているようにも感じます。アウグステイヌスを引き合いに出して、歴史の中に生きることは神を愛することと自分を愛することの二つの愛の葛藤の中で生きることだと、深遠な歴史哲学が示されているところにも本書の魅力があります。

第二は聖公会の取り上げ方についてです。著者は随所で聖公会の立場を意識した叙述を行っているように見受けられます。例えば、「教会の五要素」（宣教、奉仕、証し、礼拝、交わり）、「ランベス四綱領」、「祈祷書」の「教会問答」などです。それらがキリスト教史の文脈の中で巧みに取り上げられることによって、聖公会の立場が鮮明になっています。ここにキリスト教史の概説に留まることのない著者の工夫を見て取ることができます。

本書は図版や聖書の引用が多く、読者の理解を助けます。著者と編集者が丁寧な作り込んだ熱意も感じ取れます。著者は教会の魅力とはイエスが放つ魅力に他ならないと強調します。キリスト教史は福音宣教の歴史であり伝道の歴史に他ならず、現代の教会もまたその大きな流れの中にあります。そのような教会の歴史的意義についても再認識させられる本書はコンパクトでありながらも信頼できる良書であり、教会の信徒のみならず西洋史に興味のある一般読者にも広く一読を勧めたいと思います。歴史に向き合う真摯な姿勢が養われ、神への愛と自己への愛に生きることが促され、他者を希求する働きができますように願ってやみません。（こんどうこうじ）京都産業大学文化学部教授

（A5判・一九六頁・本体二三〇〇円＋税・教文館）

エルトムート・ドロテア
フォンツインツェンドルフ伯爵夫人

エルカガイガー 著
梅田與四男 訳

● 四六判並製 二二〇頁 本体二〇〇〇円＋税

ISBN978-4-86376-077-6

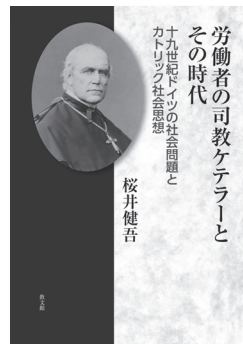
LITHON [リト]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

本書はモラヴィア人信仰難民たちとの関わりにより敬虔主義の指導者となったツインツェンドルフ伯爵の妻となり、彼女なくしてヘルンフト同胞教団は存続しなかったといわしめた伯爵夫人エルトムート・ドロテアの伝記である。一八世紀前半における同時代の女性指導者についてのこの種の伝記は類書が極めて少ない。

教会は社会問題とどう向き合うのか？

〈評者〉梅津順一



労働者の司教ケテラーとその時代

十九世紀ドイツの社会問題とカトリック社会思想

桜井健吾著

本書は十九世紀ドイツの「労働者の司教」ケテラーに關する本格的な研究書である。今日EU経済の推進力ドイツは、十九世紀には、先進的なイギリス産業革命の後塵を押し、急速な社会変化を経験しつつあった。工場制度が成立し、生産高が飛躍的に向上する一方、伝統的な職人層の没落、新しい賃金労働者の悲惨な労働条件、都市部のスラム形成など、深刻な社会問題が生起しつつあった。

この時代にあつて、ケテラーはカトリック教会の立場から、独自の社会論を築きあげた。今日のEUでは、欧州連合、国民国家、諸地域（ゲマインデ）間の関係は、「補完性原理」で調整され、経営における資本金・経営者・労働者の共同決定が重視され、「連帯の理念」が見られる。また、中世のスコラ哲学に発する「共通善」が人間と社会、国家を繋ぐ理念として生きている。現代カトリックの社会理念

は、ケテラーらが築き上げていった。

「第一章 ケテラー略伝」は、この人物の全体像を知る上で、よい手掛かりを与える。一八四四年、聖職者となったケテラーは、農民司祭として出発した。最初の任地で直面したのは、農民の飢餓、貧困、病であり、ケテラーは病院の建設を計画し、資金集めに奔走した。一八四八年の三月革命がケテラーの転機となった。彼はドイツ最初の国民議会に出馬を要請され、当選し国会議員となった。彼は教会の任務を果たすために、「教会の自由」を求めた。その後、ケテラーはマインツ司教に任命された。

著者によれば、ケテラーの社会理念は三つの段階に分けられる。第一は一八四八年段階で、農民司祭としての慈善の実践である。窮乏化する農民、寡婦、孤児、老人、身体障害者への支援活動に取り組み、所有権への理解を深めた

（第三章）。第二段階では、一八六〇年代に工場制度と大企業が興隆する中、労働者問題に取り組んだ。ケテラーは社会主義者と労働者の惨状への憂慮を共有し、キリスト教的解決を試みた（第四章）。第三段階では、さらに一歩進んで労働者保護のための国家の社会政策を構想した（第五章）。ケテラーには「補完性原理」という基本構想があった（第二章）。国家は生きた有機体であり、その有機体を構成する生きた肢体は、それぞれ固有の権利、機能、生活圏を有する。これら下位の肢体は、己を補う上位の肢体の活動を必要とする。具体的には、家庭やゲマインデ（地域社会）、学校、職業団体、国家が、互いに尊重しつつ補い合うのが「補完性の原理」である。

「補完性の原理」には、自由主義と社会主義への批判が

ある。「第六章 自由主義との対決」、「第七章 社会主義との対決」で、両者は世俗的イデオロギーとして一括して

批判される。「このような利益にしか関心を持たない人、社会を自己の『利益を保障するための便宜的施設』としかみなさない人……そこでは人と人の絆は断ち切られ……完全に孤立した自己しか残らない。」（二九六頁）。

「宗教に立ち返ろうとしない国民は、自由をもてあます。……完全な自由を活用する能力、そのような能力は教会とキリスト教を通してしか身に付けることはできない」（九七頁）。今日、このケテラーの言葉に共感するプロテスタントも少なくないのではあるまいか。

（うめつ・じゅんいち＝青山学院大学名誉教授）
（A5判・三三八頁・本体五〇〇〇円＋税・教文館）



カタリナ・シュッツ・ツェル

16世紀の改革者の生涯と思想

エルシー・アン・マッキー
南純監訳 小林宏和・石引正志*訳



プロテスタント宗教改革の発展と宗教生活に関する豊かな情景――

女性信徒改革者の視点と言葉から、宗教改革が進みつつあったストラスプールの街と人々の緊迫した様子を描く。この“平凡”な女性が、宗教改革を広い視野で見渡すことのできる「のぞき窓」なのである。

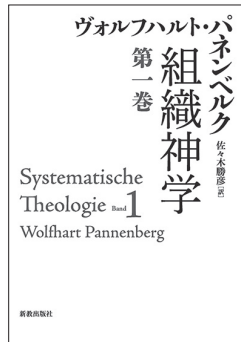
菊判・函入・上製
定価【本体8,000＋税】円
ISBN978-4-86325-108-3



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
http://www.ichibaku.co.jp
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

キリスト教神学の王道に立った 本格的な組織神学

〈評者〉**芦名定道**



組織神学 第一卷
ヴォルフハルト・パネンベルク著
佐々木勝彦訳

二〇世紀後半を代表する組織神学者パネンベルクの大著『組織神学』の第一巻が邦訳刊行された。組織神学はもちろん、キリスト教思想全般に関心のある者にとつて、待ちに待った神学書の翻訳であり、これで、パネンベルクの主要著作が日本語で読めるようになった(もちろん、第二巻と第三巻を待つ必要があるが)。翻訳者の努力に感謝したい。パネンベルクの組織神学は、組織神学の理念の説明(第一章)から、いわゆるプロレゴメナ(組織神学のテーマと方法についての所見)を扱った第二章(「神」とその認識)神学的認識、第三章(宗教、とくに諸宗教の経験)宗教論、第四章(聖書を含めた啓示論)を経て、第五章・第六章の神論(三位一体論、神の本質と属性)へと進み(ここまでは第一巻に収録)、第二巻では、創造論、人間論、キリスト論、和解論、第三巻では、聖霊論、教会論、歴史神学と終

末論(選びと歴史、神の国)が扱われる。まさに、パネンベルク神学は、キリスト教神学の王道に立った本格的な組織神学であり、組織神学がさまざまな困難に直面している現代の神学界において、その存在意義はきわめて大きい。『組織神学 第一巻』は、パネンベルク「小自叙伝」(訳者あとがきに代えて)や注を含め、全体が六〇〇頁を超えており、以下、論点をしばって紹介したい。パネンベルクの組織神学は、キリスト教教理の体系的統一性を明らかにすることによって、キリスト教教理の真理性を説得的に論じている。本書の表題「組織神学」は、教義学という伝統的な用語を避けるという消極的な理由からではなく、キリスト教教理全体の体系的統一性の叙述という目的のために採用されているのである。現代の思想的状況は、社会の世俗性と宗教の多元性に規定され、キリスト

教教理の真理を正面から論じることが決して容易ではない。本書は、現代の諸学問を縦横に参照しつつ、この困難な状況のなかで、神学本来の課題に挑戦している。もちろん、キリスト教教理の真理性を積極的に語るには、周到な方法論の準備が必要であり、本書では、パネンベルクを有名にした「啓示に関する教説についての教義学的諸命題」(パネンベルク編『歴史としての啓示』聖学院大学出版会)、科学論の神学を提示した『学問論と神学』(教文館)、そして神学的人間学を論じた『人間学 神学的考察』(教文館)によって示された成果を前提として、現代の学問(哲学、歴史学、自然科学など)と諸宗教とを視野に入れた大胆な神学体系が展開されている。こうして、過去の神学思想、特に弁証法神学を乗り越えつつ——歴史的行為を通じた神の間接的

な自己啓示が歴史の全体性を要求し、終末の先取りにおいて認識可能になるとの主張などにおいて——、現代のキリスト者と教会に対して、力強い学問的神学が提出された。読者は、本書を通して、現代神学の真摯で説得的な議論に触れることができる。特に、本書が提供する豊富な思想史(神学史と哲学史)の知識は圧倒的であり、現代において神学するために歴史的知が不可欠であることが了解できるだろう(パネンベルク自身、博士論文と大学教員資格試験のための論文で中世スコラ主義に取り組んだ)。この第一巻に続き、第二巻と第三巻の翻訳作業も開始されているとのこと、全三巻の邦訳完成に期待したい。

(A5判・六六四頁・本体九〇〇〇円+税・新教出版社)



新刊 ルター研究 第16巻

ルター研究所 編
●A5判並製 定価3,300円

「ルターと聖書」
宮本 新

「信仰」から「真実」へ
—『聖書協会共同訳』の
ピステイス(πίστις)
立山 忠浩

カトリック教会の教会法秩序と
ルターの聖書観の対比的考察
高井 保雄

聖書の無謬性と神のみことば
高村 敏浩

ルターと翻訳
江口 再起

ルターとドイツ語
—ルター訳聖書のドイツ語とその
新高ドイツ語成立への影響
多田 哲

「聖書序文」にみる
ルターの信仰と神学
石居 基夫

ルターの「信仰」を問う
末竹 十大

Why Lutherans sing what they sing
伊藤 節彦

再考:バツハは、なぜ「短調ミ
サ曲」を作曲したのか?
加藤 拓未

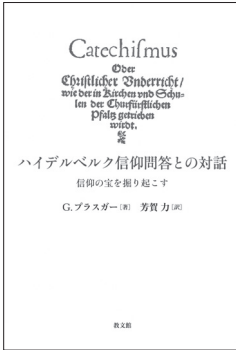
ルターから今を考える
小田部 進一

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎03-3238-7678 FAX03-3238-7638

現代人のためのキリスト教入門

〈評者〉 小堀康彦



ハイデルベルク信仰問答との対話
信仰の宝を掘り起こす
G・プラスガー著、芳賀 力訳

ハイデルベルク信仰問答を知っているという人は多いでしょう。実際にこれをテキストにして学んだ方も多々あります。その場合、この信仰問答に言い表された信仰を理解し、それを受け継ぐというあり方でこの信仰問答と関わってこられたことでしょう。

しかし、本書のハイデルベルク信仰問答との関わりは、それとは少し違います。ハイデルベルク信仰問答と対話をするのです。本書でなされている対話は、信仰的・神学的対話です。すべてのキリスト者にとって根本的な信仰上の問いに対して、ハイデルベルク信仰問答と対話しながら、論じていくものです。ですから、ハイデルベルク信仰問答のすべての問答を網羅しているわけではありません。いわゆるハイデルベルク信仰問答の解説書ではありません。しかし、ハイデルベルク信仰問答の字面を追っているだけで

は見えてこない、この信仰問答の持つ神学的射程の長さ、広さ、深さに目を開いてくれる書です。

本書は十四のテーマを選んでハイデルベルク信仰問答と対話します。このテーマの選定自体、大変興味深いものがあります。例えば第六章は「キリストと私たちキリスト者——参与すること」です。第九章は「聖霊——キリストと一つにされること」です。思わず読んでみたいと思うでしょう。十四のテーマは、もちろん連関していますけれども、それぞれ独立した記述になっています。ですから、第一章から順に読まなくても、目次のテーマを見て「これは面白そうだ」と思うところから読んでも差し支えないと思います。ハイデルベルク信仰問答に馴染んでいると思っっている人ほど、「えっ！これはそういうことまで射程があったの！」と驚くことでしょう。

対話である以上、当然批判することもあります。しかし、対話における批判というものは、一方的に自説を主張しても成り立ちません。まず相手の言うことをよく理解した上で、これはどうなのだろうかとの問いが出されなければなりません。ハイデルベルク信仰問答は四五〇年前（一五六三年）に成立したものです。ですから、この信仰告白が成立したときに見えていた世界の景色は、私共が今見ている景色とは当然違います。例えば第八章の「創造を信じる」においては、アパルトヘイトやホロコーストを知ってしまった私たちがどのように神の創造・摂理を信じ得るのか、幾つかの神学的思考を紹介しつつ、ハイデルベルク信仰問答と対話しながら論じます。

本書の著者であるゲオルク・プラスガー氏（現ジューゲン

大学組織神学教授）は、元ドイツ改革派連盟の議長団の人だった方です。そして、訳者の芳賀力氏（現東京神学大学教授）も改革派教会の信仰に立つ神学者です。本書はハイデルベルク信仰問答成立四五〇年を記念して出版されました。改革派教会の代表的な信仰告白であるハイデルベルク信仰問答が、現代に生きる私共にも意味あるものであり、信仰の宝箱であることを改めて教えてくれる書です。本書の提供するハイデルベルク信仰問答との対話に参加していく中で、自分が受け継いできた信仰を、慣れ親しんだ神学用語を用いるのではなく、自分の頭で考え、現代の言葉で言い表すことへと促されることでしょう。

（こぼり・やすひこ）日本基督教団富山鹿島町教会牧師（四六判・三三〇頁・本体二九〇〇円＋税・教文館）

ヨベルの新刊案内

ジュセツペ・三木一 A5判・二五〇円
アベルのところ
命を祝う
 創世記を味わう第4章「人類最初の、しかも兄弟間での殺人事件が如何にして起こったのか。正教会著者による丹念にたどり直した意欲作。『津久井やまゆり園事件』をも併せて読み解くシリーズ第二弾！
 既刊書在庫僅少

松島雄一 ハリストス大 版教会司祭
神の狂おしいほどの愛
 *メッセージ集
 正教会一年間の教会暦に沿って語られる真の人間性（いきかた）へと開花させる。47の説教&論考。ヨベル新書054
 新書判・256頁・1200円

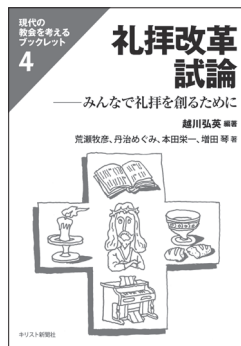
塩屋 弘 ウェスレアン・ホーリネス 教団戸畑高峰教会牧師
ヨブ記に聞く！
 正しい人がゆえなき苦しみや一人を惹きつけてやまないヨブ記を、あたかも物語の輪の中を巡り直す。
 四六判・168頁・1,300円

鎌野善三 日本イエス・キリスト 教団西舞鶴教会牧師
3分間の「律法」
 聖書全巻の一章ごとの要諦を3分間で読める平易なメッセージにまとめて、「聖書新改訳2017」に準拠した改訂第4弾！【全5冊】
 【律法】
 【歴史】 【詩歌】 【預言】
 【福音】。各1,600円
 次回「預言」にて完結。
 好評発売中！ A5判・208頁・1,600円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
 〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
 TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
 出版の手引き / 呈 (税別)

「変わらないことを好む」教会のための、新しい礼拝への手引き

〈評者〉 浦上 充



現代の教会を考えるブックレット4
礼拝改革 試論

みんなで礼拝を創るために

越川弘英編著／荒瀬牧彦、丹治めぐみ、

本田栄一、増田 琴著

本書は、これまで私たちがまもってきた礼拝の構造を把握すると共に、多様化とエキシメニカルな交わりの中で、新しい礼拝の姿を模索する、多くの教職者や信徒への実践的な手引きとなるでしょう。著者の越川弘英氏は、これまで多くの翻訳や著書によって、プロテスタント教会の礼拝の構造やその意味について、日本の教会の現場に多くの示唆を与えてくださいました。本書はそれらを踏まえた上で、どのように礼拝改革を進めていけばよいのかという具体的な事柄を試論として紹介しています。

日本の教会は「学ぶことを好む」と同時に「変わらないことを好む」という性格を持っており、これまでも礼拝については、教会や教区などを通して様々な学びの機会がありました。しかし、その場で学んだことを、実践できているのかと問われれば、ほとんどないとしか答えられない現

実があります。また、このような教会の現状は、神学校を卒業する若い教職たちにも大きな影響を与えています。


私も自身も経験したことです。学生たちは神学校で、現代の教会が直面している様々な課題に対して神学的に考察し、多様な礼拝を経験してきました。しかし、そのような神学生たちも、牧会に出る直前になると、日本の教会の現状に合わせて、現代人には理解しにくい言葉で書かれた古い式文を唱える練習を始めます。本来プロテスタント教会は、会衆全員が理解できる、生きた言葉で聖書を読み、賛美することを大切にしてきました。しかし、そうとも言い切れない現状が、現代の日本の教会にはあるのではないのでしょうか。しかし一方で、礼拝用の賛美歌集として編集された『讃美歌21』が一九九七年に出版され、二〇〇七年にはカンパランド長老キリスト教会日本中会の礼拝書である『神

の民の礼拝』が、二〇〇六年、二〇〇九年には『日本基督教団 式文（試用版）』が発行され、礼拝を新しくしていく準備が整ってきているのも事実です。本書では、そのような新しい式文を取り上げる一方で、教会の現状に合わせて、段階を追って礼拝を改革していきけるように式順の試案のほか、礼拝の主題の提案、聖餐の充実、会衆参与の可能性などが示されています。

先ほど触れたように、日本の教会には、「学ぶことを好む」と同時に「変わらないことを好む」という側面があります。その奥には、自分が信仰の先達者たちから受け継いできたものを変えてよいのかという思いと同時に、どこを目指していけばよいのか分からないという恐れがあったのではないのでしょうか。その点、本書では、これまで行われてきた


礼拝から、大きな違和感もなく新しい式順へと移行できるモデルが示されており、少しずつ礼拝改革を進めていこうと考えている教会にとって、大きな目安となります。最後に、第二部に掲載されている座談会では、日本の教会の礼拝や聖餐式の式文について、教会における現状やこれからの礼拝の姿について話されています。それぞれの議論は断片的とはいえ、様々な示唆が与えられるものです。これからも、このような礼拝改革の試論が検討され、同時に礼拝を改革した後、教会でどのような変化が起こり、またどのような課題が見えてきたのかについても話し合われることを願います。

（うらかみ・みちる 日本基督教団東中野教会牧師）
（A5判・一九二頁・本体一六〇〇円＋税・キリスト新聞社）



改訂版
キリスト者への問い
あなたは天皇をだれと言うか


松谷好明
Yoshiaki Matsutani



いま、キリスト者として考えなければならないこと

信仰告白的に生きるとは
どういうことかを真摯に問う。
キリスト者として
日本人として生きる上での
重要な指針を
与えてくれるであろう。

四六判変型
定価【本体 1,700 + 税】円
ISBN978-4-86325-117-5



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

希望を与え、 生きる力となる一冊

〔評者〕**ロブ・ウィットマー**



愛の余韻

榎本てる子 命の仕事
榎本てる子著、青木理恵子編

『愛の余韻—榎本てる子 命の仕事』の書評を依頼され、とても光栄に思っています。

私たち家族が日本での働きについて報告をするため、カナダへ行っていた一九八五、八六年に何回かてる子さんと会い、またカナダを回っている間、彼女に会った人たちから彼女の働きについて話を聞きました。その後、てる子さんが働いていた関西学院大学神学部へ行く機会があり、研究室を訪ねましたが、残念なことに会うことができませんでした。けれども、この本に文章を書き、また編集を手伝った多くの友人たちから大学での彼女の働きについて話を聞きました。てる子さんこそ「愛の余韻」を分かち合う命の仕事をしたのだと思います。

この本は二つのパートに分かれています。前半は、てる子さんがカナダにいたときの日記で、後半は彼女と出会っ

た人たちが彼女から与えられたものを綴った文章です。カナダにいる間、てる子さんは白人の社会で孤独と差別を経験し、傷も受けました。しかし、このつらいことの中で神の愛と力をも経験し、生き抜くことができました。弱い立場に置かれるということはつらいことですが、それによって本当の出会いが起こり、関係を築くことができます。カナダ日記に、てる子さんはこう書いています。

「私は、カナダでたくさんの人から親切を受けた。孤独の苦しさに涙を流していたとき、友がそばに来て慰め、励ましてくれた。これらの友を通して私は、受肉の神に出会った。神様は友を通して働き、そして私に『わたしはどんな時もあなたと共にいる』ということを伝えてくださった」(六四頁)。つらいことを経験することによって、神に捨てられたのではなく、どんな時も必ず共にいるという確信が与えられ、

それが日本での働きの土台となったのでしよう。

てる子さんは、カナダのトロント市にあるエイズホスピスで研修し、日本に帰ってから一九九四年にHIV/AIDSで苦しんでいる人たちの支援活動をはじめました。それは治療ではなく、カウンセリングと交流を進める活動でした。そして、一九九八年から京都にあるバザールカフェを通してその働きをさらに広げて、苦しい状況に置かれているより多くの人々が、自分を愛することの大切さを分かち合うことができました。この働きによって多くの人々に「愛の余韻」が聞こえたと思います。

二〇〇八年に関西学院大学の神学部で働くことになってからも、多くの学生と様々な立場の人たちに同じ考え方を分かち合い、多くの人がバザールカフェと関わるようにな

りました。私たちはひとりではない。どんな時も神さまは共にいてくださる。あなたは神に愛されている。価値と可能性がある。そして生まれてから死ぬまで「あなたはあなたでしかない」から、互いに愛し合うために自分を愛しなさい。彼女はそう伝えているので。

五十五歳の短い人生を駆け抜けて、葬儀と言わずに、てる子さんが望んだ「命を祝う」(Celebration of Life)は、思い思いの服装で人々が集まり、てる子さんの命だけでなく、「いのち」そのものを祝う会でした。前日には神さまのドラマチックな出来事。

この本は私たちに希望を与え、生きる力となります。ぜひお読みください。
(B6判・二八八頁・本体一八〇〇円＋税・いのちのことば社)
(農村伝道神学校校長)

新刊

ユダヤ教とキリスト教
上智大学キリスト教文化研究所 編

ユダヤ教とキリスト教
上智大学
キリスト教文化研究所 編
●四六判並製 本体 2,000円

本書は、2018年の聖書週間に上智大学にて行われた聖書講座をもとに、書き下ろした論集とシンポジウムを収録した。

イエスの時代の言語生活
—イエスは何語を使ったか?—
高橋洋成

●
中世ユダヤ教世界におけるイエス
—聖書解釈と民間伝承—
志田雅宏

●
ホロコースト後のユダヤ人とキリスト教徒
—キリスト教への改宗者の戦後—
武井彩佳

●
シンポジウム
司会 竹内 修一
ISBN978-4-86376-076-9

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎03-3238-7678 FAX03-3238-7638

キリスト教福祉実践の本質を問う画期的一冊

〈評者〉 木原活信

どん底から見える希望の光
——ともに生きる福祉の実践——

介護で悩むすべての人へ

「牧师×福祉」
異色の人生で学んだ
介護で本当に大切なこと。



どん底から見える希望の光

ともに生きる福祉の実践

佐々木 炎著

著者の風貌はまるで私と同年とは思えないほど、爽や
で若々しく明朗活発、エネルギーが溢れる。あたかも映画俳優
のような容姿でもある。しかし、そのような姿とは裏腹
に、壮絶な暗い過去をもっていることが本書で赤裸々に語
られている。

本書の中で著者は非嫡出子としての複雑な生い立ちを語
る。「ホームレス生活の最中、私は母のお腹に宿ったのだ。
社会通念上、私という存在自体が許されるはずもない。だ
が、両親は悩み抜いた末に産む決断をし、私はこの世に生
を受け、今ここに存在している」(一六〇頁)と語る通りで
ある。著者の父親は、高次脳機能障害を抱え四十代で精神
病院に隔離されていたが、そこでボランティアに来ていた
当時一九歳の女性と出会う。この女性が著者の母親である。
そして父親はその女性の手助けで精神病院を脱走。その後

の家族生活は、辛酸を舐め続け、文字通り「どん底」の貧
困生活を余儀なくされたという。「ゴミ収集場から拾い集
めた資材で、掘っ立て小屋を建てて生活を始めた。水道も
電気もなく、屋根は何度も風で飛ばされ、雨漏りの連続。
テレビや冷蔵庫、お風呂もなく、夜はロウソクの明かり」
(一六〇頁)と想像を絶する暮らしであるが、そんな生活
からの逃避で、著者は「不良少年」となり、やがて暴走族
のリーダー(「罪人の頭」となる。しかし、このような人
生の不条理、「どん底」で「希望の光」を見出した。どん
底生活から「罪人の頭」を救い出すイエス・キリストに出
会い、人生を一八〇度変えられて逆に「希望の光」を伝え
る者となるのである。

で救し、救ってくれたイエスの愛こそがその根本にある。
それは条件付きの愛ではなく、「無条件の愛」である。こ
の愛を実践するためにNPO法人ホッとスペース中原を、
そしてその愛を伝える中原キリスト教会を開拓し、その
ミッションを貫き今に至る。

愛と言っても、恩着せがましく偽善的なものではない。
本書では、それらのケア実践が、リアルな事例として、仮
名ではあるがその顔が一人一人思い浮かぶかのように生き
生きと描かれている。日々の介護日記のように。特徴的な
のは、著書の利用者へのまなざしが強い共感共苦(コン
パッション)に基づいている点である。認知症、障碍、病
貧困、非行、犯罪、マイノリティ、これらを官僚的で冷た
い専門家としてではなく、「弱さ」「痛み」に共感するまな

本書で述べられている著者のケア論の実践哲学は、この
どん底の体験と密接にかかわっている。罪人を無条件の愛
ざしで支えている様子が伝わってくる。つまり、当事者の
置かれた苦難の状況に寄り添ったケアである。「ケアを受
ける人と与える人の分断」(一五五頁)をしないことを目
指しているというが、きつと、それは苦難の人生を味わい
尽くしたどん底の生い立ちと重ね合わせて、利用者の背後
にあるものを見ているからであろう。どん底の苦悩を味
わった者のみに許された境地なのかもしれない。

本書は上から目線の教訓ではなく、どん底から本当の希
望への道標が生き生きと描かれており、読み応え十分であ
る。福祉関係者、キリスト教関係者のみならず、今、どん
底を味わっている一人でも多くの方々に読んでもらいたい
本である。

(きはら・かつのぶ)同志社大学社会学部教授
(四六判・一六八頁・本体一〇〇〇円＋税・キリスト新聞社)

暴発するテロ、迫るファシズム、
底なしの格差と貧困……。

現代の危機を
神学の知恵で
読み解き、
希望への処方箋を
提示する。

佐藤 優

危機の正体

富岡幸一郎

定価・本体1500円(税別)

978-4-06-51734-0

〒112-8001
東京都文京区音羽2-12-21

講談社

『本のひろば』のバックナンバーをWeb上で閲覧できます。「キリスト教文書センター」のホームページから「書評誌『本のひろば』」にアクセスしてください。

<http://www.bunshyo.or.jp>

2019年11月号

書名	著・訳・監修者、出版社	書評者
巻頭エッセイ：真実な言葉求めて 広田叔弘		
エッセイ：第一七回東北アジア・キリスト者文学会議に参加して 佐藤ゆかり		
特集：「教皇フランチェスコ」について学ぶならこの三冊！ 有村浩一		
EKK新約聖書註解 ヨハネの第二、第三の手紙	H-J・クラウク著、教文館	三浦 望
贖罪信仰の社会的影響	青山学院大学総合研究所キリスト教文化研究部編、教文館	藤本 満
ひとりでも最後まで自宅で	森 清著、教文館	市川 一 宏
アモス書講義	ジャン・カルヴァン著、新教出版社	小友 聡
神学の小径Ⅳ	芳賀 力著、キリスト新聞社	石井 佑 二
銀幕の中のキリスト教	服部弘一郎著、キリスト新聞社	沼田 和 也
50年以上前からあった「心のノート」	福田節子著、ヨベル	角田 芳 子
ヒップホップ・レザレクション	山下壮起著、新教出版社	福山裕紀子
詩編を読もう 上	広田叔弘著、日本キリスト教団出版局	小倉 義 明

2019年8月号

書名	著・訳・監修者、出版社	書評者
巻頭エッセイ：十字架の矢の痛手 岩崎 謙		
特集：「キリスト教と平和」を学び直すにはこの三冊！ 比企敦子		
旧約聖書入門3	大野恵正著、新教出版社	大 島 力
使徒パウロの神学	J.D.G.ダン著、教文館	山 田 耕 太
コヘレトの言葉を読もう	小友 聡著、日本キリスト教団出版局	松 本 敏 之
愛し、愛される中で	榎本てる子著、日本キリスト教団出版局	後 宮 敬 爾
マインドフルネスとキリスト教の霊性	ティム・ステッド著、教文館	阿部 伸 麻 呂
英学者 本田増次郎の生涯	長谷川勝政著、教文館	西 口 忠
3分間のグッドニュース「詩歌」	鎌野善三著、ヨベル	門 叶 国 泰
失われた歴史から	水草修治著、ヨベル	大 坂 太 郎
遠藤周作と探偵小説	金 承哲著、教文館	古 橋 昌 尚
キリスト的ジェスチャー	B.ウェブミッシュル著、一麦出版社	小 泉 健
バックストン著作集3	いのちのこば社	広 谷 和 文
主の前に静まる	片岡伸光著、日本キリスト教団出版局	太 田 和 功 一

2019年9月号

巻頭エッセイ：身勝手ですが、これでもだいじょうぶ 森 言一郎		
特集：「グリーンケア」を学ぶならこの三冊！ 藤掛 明		
評伝 矢内原忠雄	関口安義著、新教出版社	川中子義勝
歴史から見たキリスト教信仰	内坂 見著、キリスト新聞社	犬 養 光 博
海老名弾正関係資料	關岡一成著、教文館	土 屋 博 政
コンパクト聖書注解 出エジプト記Ⅰ	C.ホウトマン著、教文館	三 好 明
聖書の植物よもやま話	堀内 昭著、教文館	渡 辺 憲 司
ただ一つの慰め	吉田 隆著、教文館	本 城 仰 太
協力と抵抗の内面史	富坂キリスト教センター編、新教出版社	山 口 陽 一
夜と霧の明け渡る日に	V.E.フランクル著、新教出版社	入 江 杏

2019年10月号

巻頭エッセイ：蔵書に隠された謎 陣内大蔵		
特集：「キリスト教の霊性」を学び直すにはこの三冊！ 打樋啓史		
若者に届く説教	大嶋重徳著、教文館	関 川 泰 寛
橋をつくるために	教皇フランシスコ他著、新教出版社	山 岡 三 治
ジョヴァンニ・パッティスタ・シドティ	M.トルチヴィア著、教文館	鈴 木 範 久
ぬくもりの記憶	片柳弘史著、教文館	小 島 誠 志
〈グローバル・ヒストリー〉の中のキリスト教	ミラ・ゾンターク編、新教出版社	加 藤 喜 之
アレティア エレミヤ書	日本キリスト教団出版局編、日本キリスト教団出版局	野 村 稔
かみさま、きいて！	大澤秀夫他監修、日本キリスト教団出版局	小 見 の ぞ み
人間の本性	ラインホルド・ニーバー著、聖学院大学出版会	千 葉 眞

松本敏之「創世記説教集」ついに完結！

最終巻

神の壮大な計画

創世記37～50章による説教

日本キリスト教団鹿児島加治屋町教会牧師

松本敏之 [著]

Matsumoto Toshiyuki

計り知ることのできない神の祝福が
ヨセフを通して世界に広がる！

『神の美しい世界』『神に導かれる人生』『神と人間のドラマ』に続く第4巻。
日本キリスト教団鹿児島加治屋町教会の主日礼拝で語られた15編の説教集。

1 将来	4 記憶	7 精練	10 摂理	13 旅路
2 受難	5 知恵	8 食卓	11 元気	14 希望
3 誘惑	6 食糧	9 嘆願	12 統治	15 平安

シリーズ好評発売中



創世記1～11章による説教
本体1,800円＋税



創世記12～25章による説教
本体1,800円＋税



創世記25～36章による説教
本体1,400円＋税

四六判・194頁・本体1,400円＋税
ISBN978-4-97395-769-2

キリスト新聞社 since 1946 〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1 TEL 03-5579-2432 E-Mail.support@kirishin.com

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jb-shop.com	sasaki@jb-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zeninkan_syoten_0530@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1771F	022-223-2736	共用		fqwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	〒新中延町2-2 榎ヶ丘センタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アパコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimbo.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biglobe.jp/~yohatara-cbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunshata.cococan.jp/	nagoya-seibunshata@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東1ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用		kobe-kirisyo@mse.biglobe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www.w6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/index.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	903-0207	中環読字線777 沖縄キリスト教館内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※ 一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

■日本キリスト教団出版局

教会でも、がん哲学外来カフェを始めよう

樋野興夫編著

がんの方が対話を通して元気を回復していく「がん哲学外来カフェ」。教会が広く門戸を開き、地域に仕える働きとして、今、高い関心が寄せられている。実際にカフェに携わる26名が、いかにして教会でカフェを始め、続けてきたかを具体的に語る。カフェを始めた教会の必読書。

四六判・144頁・1500円

一日一禱 毎日の聖書と祈り

石井錦一／木下宣世／関茂／渡辺正男著

毎日聖書を読み、祈る。この「信仰生活の土台」を築くために格好の書。31日分の味わい深い祈りと、ふさわしい聖書の言葉。朝に夕に、食卓で、寝床で、通勤中に、病床で。どこでも開けば、そこが祈りの場所になる。収録の祈りはかつて『信徒の友』巻頭を飾ったもの。

四六判・120頁・本体1200円

INFORMATION

近刊情報

■新教出版社

正義と法

——キリスト教法倫理の基本線(仮題)

ヴォルフガング・フーバー著

佐藤司郎・木部尚志・小嶋大造訳

法の神学的基礎を探り、人権を最重要価値として、複雑な現代世界における法治国家のあり方と正義の課題を全面展開する。著者はキリスト教社会倫理の泰斗であり、ドイツ福音主義教会監督、またWCCの指導的神学者として活躍した。待望の名著ついに邦訳。

A5判・752頁・本体予価9500円

■教文館

アウグスティヌス著作集19／I 詩編注解(3)

アウグスティヌス著

佐藤真基子、片柳榮一、水落健治訳

二十九年間の執筆と説教を重ねて完成したアウグスティヌス最大の著作の邦訳第3巻。詩編54〜74編を収載。

A5上製 函入・736頁・本体7500円

福音と世界

2020年1月号

特集 神秘主義の力

寄稿者＝鶴岡賀雄、村澤真保呂、田崎英明
栗原康、佐藤紀子、上條敏子

書評 宮田光雄「ボンヘッファー」(柳父園近) /
追悼 ウルリッヒ・ルツ教授(佐藤研) / 新連載
くまさんのシネマめぐり(好井裕明) / 好評連載
バビロンの路上(Constructures of a Son of a Preacher
Man)(マニエル・ヤン)、教父学入門(土井健司)、
福音書記者たちの饗宴(松本あずさ)ほか

A5判・本体 588円・〒70円
定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148
Email: sales@shinkyō-pb.com

編集室から

捉えようとしている事柄のゆえに決して分かりやすくはないものの、しかし、読者を引きつける独特な力に満ちている(彼女の霊的著作の選集があれば！)。

例えば『境に居て』という本がある。講談社から出ているのだが、「神の静かさ」「荒野」「過越(脱出)」といった、キリスト教霊性の重要概念にあふれている本である。それを信仰の有無を問わず多くの人に読ませてしまおうところ

久しぶりに高橋たか子をぼつりぼつり読んでいる。小説家としての歩みの途上で井上洋治神父から洗礼を受けた人である。以降、キリスト教の霊性の中心に迫る小説やエッセイを書いた。その作品は、

予告

本のひろば

2020年2月号

本・批評と紹介

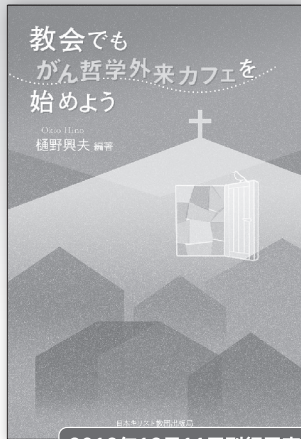
(特集)「豊かな霊性に満ちた祈り」に学ぶならこの三冊！(書評) 上智大学キリスト教文化研究所編「ユダヤ教とキリスト教」、フェルデインアント・ハーン『新約聖書神学』、田中遵聖著『主は偕にあり』他

が、まさに彼女の力業なのだと思う。

本書で、キリスト教文学とは何か、に少し触れている。登場人物を通して神やキリストを描く、というのはキリスト教文学の常套的に行うことであるが、彼女がしたいのは「もつと別の相」だと言う。それは人が自らの内面を掘り進んでいくときに必ず出会う、「内部の海」を示すこと。そこは神の在り処である。

「わたしが与える水を飲む者は決して渴かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る」(ヨハネ四・一四)。彼女の小説には、ひどく渴いている人々が出てくる。この渴きは彼女自身のそれであり、その癒やしを懸命に探究し、磨き上げた日本語で表現したところに、高橋たか子の特異な召命があった。(土肥)

教会でがん哲学外来カフェを始めたい方の必読書



2019年12月11日刊行予定

教会でも、 がん哲学外来カフェを 始めよう

樋野興夫 編著

がんの方が対話を通して元気を回復していく「がん哲学外来カフェ」。教会が広く門戸を開き、地域に仕える働きとして高い関心が寄せられている。実際にカフェに携わる26名が、与えられた恵みや気づきを記し、いかにして教会でカフェを始め、続けてきたかを具体的に語る。 ◆四六判 並製・144頁・1,650円

好評発売中

『TOMOセレクト がん哲学外来で処方箋をカフェと出会った24人』 1,650円

31日分の祈りを取めた、祈りのベスト・セレクション

一日一禱

毎日の
聖書と祈り

石井錦一／木下宣世／関 茂／渡辺正男

『信徒の友』巻頭の祈りから31日分と教会暦の祈りを精選し、聖句を付す。毎日聖書を読み、祈るという「信仰生活の土台」を築くために格好の書。

◆四六判 並製・120頁・1,320円

2019年12月2日刊行予定



『クリスマスおもしろ事典(電子書籍版価格：税込1,320円)』

電子書籍版配信開始!

クリスマスの雑学が満載の人気本が、電子書籍で読めるようになりました。リフロー型なので文字の大きさを変更でき、どんなデバイスでも読みやすい! お求めは電子書籍配信サイトにて「クリスマスおもしろ事典」で検索!



一九五七年七月一日 第三種郵便物認可
二〇二〇年一月一日発行（毎月一回一日発行）
本のひろば 第七四五号 二〇二〇年一月号

12月の新刊（価格表示は税抜）

好評既刊



アウグスティヌスの母 **モニカ** 平凡に生きた聖人

G・クラーク 著 松崎一平／佐藤真基子／松村康平 訳

殉教者でも、教師でも、修道者でもなく、『告白録』に母の思い出としてのみ登場する庶民階級のモニカが、なぜ崇敬を集める聖人となったのか。歴史学・考古学・文化史などの視点から古代末期の女性像を再構築した画期的な研究。

● A5判・314頁・本体3,400円



二つの愛が二つの国を造った

金子晴勇 著

古代教会最大の思想家アウグスティヌスの畢生の大作であり、その後のヨーロッパ思想の歴史観・国家観に多大な影響を及ぼした『神の国』。アウグスティヌス研究の第一人者である著者が、『神の国』が執筆された時代背景、全体構想、そして基本思想を分かりやすく解説した入門書。

● A5判・320頁・本体4,200円

アウグスティヌス『神の国』を読む

その構想と神学

キリスト教古典叢書

神の国

アウグスティヌス 治典ほか訳
金子晴勇／泉



西欧の国家論・歴史哲学理論の形成に寄与した記念碑的大著の全訳。上巻では異教徒に対するキリスト教弁証論を中心に「地の国」の歴史を論じる。下巻では聖書における人類の歩みを鳥瞰し、歴史を導く神の救済のわざを説く。

（上）● A5判・792頁・本体6,200円
（下）● A5判・750頁・本体6,200円

キリスト教古典叢書

告白録

アウグスティヌス 宮谷宣史訳



「最初の近代人」「西洋の教師」と評される偉大な思想家アウグスティヌスが、自らの半生を克明に綴った魂の遍歴。人間存在に深く潜む神へのあこがれを探求した名著が、最新の研究成果に基づく原典からの翻訳で現代に甦る！

● A5判・670頁・本体4,800円

キリスト教古典叢書

アウグスティヌス神学著作集

金子晴勇／小池三郎 訳

西洋思想に広く影響を与えたアウグスティヌス。彼の神学思想は、異端を論駁することで形成されていった。その露店ともなった思慮論とサクラメント論をめぐる著作を中心に収録。アウグスティヌスの思想を理解するうえで不可欠の書。

● A5判・746頁・本体6,800円



発行所 〒163-8614 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター
電話03-3361-6510 振替0017-0151-2679
発行人 本村利春 編集人 土肥研一 印刷所 御平河工業社
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話03-3361-5670

教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
電話 03-3561-5549（出版部直通）〈呈・図書目録〉

キリスト教の書籍やCD、グッズのご注文は（e-shop 教文館）
<http://shop-kyobunkwan.com/> まで！



定価七八円（税抜七一円）（税込63円）
一年分一三〇〇円（送料共）